

第 3 2 回

日・韓・中ジュニア交流競技会（卓球）

The 32th Japan・Korea・China

Junior Sports Exchange Meet 2024



期 日 ： 令和6年8月25日(日)～31日(土)

会 場 ： 亀尾市 高牙シニアスポーツパーク

主 催 ： （公財）日本スポーツ協会

1. 大会名 第32回 日・韓・中ジュニア交流競技会
2. 大会期日 令和6年8月25日(日)～31日(土)
3. 会場 韓国 亀尾市 高牙シニアスポーツパーク
4. 宿 舎 <ラマダ・バイ・ウィンダムクミホテル> (Ramada By Wyndham Gumi)
5. 種 目 男子団体・女子団体
6. 競技方法 日本・韓国・中国・開催地の4チームによるリーグ戦
7. 日 程

8月24日(土)	16:00～ 17:00～	集合(アートホテル成田) 結団式(全競技合同)
8月25日(日)	9:30～ 10:00～ 12:00～ 14:00～	ホテル出発 成田空港着 搭乗手続き 成田空港発大韓航空チャーター便 釜山空港着 入国手続き
8月26日(月)	13:00～	練習・監督会議
8月27日(火)	9:30～	韓国vs日本(男女)
8月28日(水)	14:00～	慶尚北道vs日本(男女)
8月29日(木)	14:00～	中国vs日本(男女)
8月30日(金)	9:00～ 19:00～	文化探求 フレンドシップ交流
8月31日(土)	9:30～ 11:00～ 13:00～ 15:00～	ホテル出発 釜山空港 搭乗手続き 釜山空港発大韓航空チャーター便 成田空港着 到着後順次解散

10. 推薦役員・推薦選手名簿

役 職	氏 名	所 属
団 長	塚田 博文	(公財)全国高体連卓球専門部
男子監督	古瀬 泰之	出雲北陵高等学校
女子監督	神谷 卓磨	愛み大瑞穂高等学校
男子選手	鈴木 柊平	遊学館高等学校
	谷本 拓海	育英高等学校
	石山 浩貴	上宮高等学校
	梅木 大智	鶴岡東高等学校
	杉浦 涼雅	愛知工業大学名電高等学校
女子選手	伊藤 詩葉	四天王寺高等学校
	吉本 はな	香ヶ丘リベルテ高等学校
	岩木 仁香	横浜隼人高等学校
	小野 蒼彩	進徳女子高等学校
	遊佐 美月	愛み大瑞穂高等学校

第32回日・韓・中ジュニア交流競技会卓球競技 記録

日本		2	vs	3	韓国	
1	梅木 大智 谷本 拓海	3	11 - 6 11 - 8 8 - 11 11 - 4 -	1	Jeong Dae Young/ Lee Donghyeok	1
2	鈴木 柊平	0	10 - 12 10 - 12 2 - 11 - -	3	Baek Donghoon	2
3	谷本 拓海	3	10 - 12 11 - 8 11 - 8 7 - 11 11 - 6	2	Choi Jiwook	3
4	石山 浩貴	0	6 - 11 9 - 11 8 - 11 - -	3	Lee Donghyeok	4
5	杉浦 涼雅	1	8 - 11 11 - 13 13 - 11 10 - 12 -	3	Kim Byeonghun	5

日本		4	vs	1	韓国	
1	伊藤 詩葉 小野 蒼彩	3	4 - 11 11 - 3 12 - 10 11 - 7 -	1	Kim Sooji / Yoon Seonah	1
2	吉本 はな	1	6 - 11 5 - 11 11 - 5 6 - 11 -	3	Kim Eunseo	2
3	伊藤 詩葉	3	11 - 8 12 - 10 11 - 5 - -	0	Jang Yunwon	3
4	遊佐 美月	3	11 - 8 11 - 4 9 - 11 9 - 11 11 - 9	2	Lee Seojin	4
5	岩木 仁香	3	11 - 8 12 - 10 11 - 8 - -	0	Yoon Seonah	5

日本		1	vs	4	中国	
1	鈴木 柊平 杉浦 涼雅	1	9 - 11 4 - 11 11 - 9 5 - 11 -	3	Huang Xunan / Luo Jiecheng	1
2	谷本 拓海	0	5 - 11 8 - 11 5 - 11 - -	3	Li Tianyang	2
3	鈴木 柊平	3	12 - 10 10 - 12 6 - 11 13 - 11 11 - 8	2	Huang Xunan	3
4	石山 浩貴	2	12 - 10 8 - 11 8 - 11 13 - 11 7 - 11	3	Luo Jiecheng	4
5	梅木 大智	0	11 - 13 7 - 11 7 - 11 - -	3	Ao Hualei	5

日本		0	vs	5	中国	
1	遊佐 美月 吉本 はな	0	4 - 11 7 - 11 7 - 11 - -	3	Yao Zixuan / Ding Yijie	1
2	小野 蒼彩	0	5 - 11 4 - 11 7 - 11 - -	3	Yao Zixuan	2
3	岩木 仁香	1	8 - 11 11 - 7 7 - 11 5 - 11 -	3	Ding Yijie	3
4	伊藤 詩葉	0	7 - 11 7 - 11 9 - 11 - -	3	Yan Yutong	4
5	吉本 はな	2	4 - 11 9 - 11 11 - 7 11 - 8 8 - 11	3	Liu Xinran	5

日本		4	vs	1	慶尚北道	
1	鈴木 柊平 石山 浩貴	1	8 - 11 11 - 8 10 - 12 3 - 11 -	3	Yun Eun Bin / Kim Tae Rang	1
2	谷本 拓海	3	8 - 11 11 - 8 9 - 11 11 - 7 11 - 5	2	Kim Soo Hwan	2
3	石山 浩貴	3	11 - 7 11 - 8 13 - 11 - -	0	Son Gwan Hyeop	3
4	杉浦 涼雅	3	12 - 10 13 - 11 11 - 7 - -	0	Yun Si Woo	4
5	梅木 大智	3	11 - 9 13 - 11 7 - 11 4 - 11 11 - 9	2	Kim Tae Rang	5

日本		5	vs	0	慶尚北道	
1	岩木 仁香 小野 蒼彩	3	11 - 6 11 - 3 8 - 11 11 - 7 -	1	Kim Jiwoo / Shin Hyewon	1
2	吉本 はな	3	16 - 14 11 - 8 11 - 8 - -	0	Choi A Yoon	2
3	伊藤 詩葉	3	11 - 6 11 - 5 11 - 6 - -	0	Kim Seoyeon	3
4	遊佐 美月	3	11 - 7 11 - 4 11 - 6 - -	0	Kim Jiwoo	4
5	小野 蒼彩	3	11 - 4 11 - 6 11 - 9 - -	0	Kang Hye Ryeong	5

大会スナップ 1



大会スナップ2



大会スナップ 3



『第32回日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して』

団長 （公財）全国高体連卓球専門部 塚田 博文

今年度で32回目を迎える日本・韓国・中国ジュニア交流競技会は、韓国の慶尚北道の2番目に大きな亀尾市で8月25日(日)～31日(土)の日程で開催されました。この交流競技会は、日本・韓国・中国の3か国11競技247名で構成され、3か国の技術の向上と交流を目的に毎年開催されています。卓球競技は、3月の春季合宿の結果をもとに、男女各5人が選抜され、私は団長として参加させていただきました。

24日に成田のホテルに全種目の日本選手団が集合し、日本選手団の結団式が行われましたが、1m90cm以上の選手を擁するバスケットボールやバレーボール、100kg以上の選手が大勢いるラグビーやウェイトリフティングなど、競技によって体格の違いがはっきりしていたことと、夕食会場では、卓球選手達の明らかに5倍以上食べている選手も大勢いて、驚きました。

翌日成田空港からチャーター機で韓国に向かい、バスで1時間30分かけて、競技が行われる亀尾市に向かいました。亀尾市は、韓国最大の内陸工業地で、サムスン電子、LGイノテックをはじめ、半導体関連企業が、たくさんある都市です。ここで、印象的だったのが、滞在期間中、日本車を見ることが一度もなかったことです。地元の人に聞くと、未だに反日感情を抱いている人が大勢いるようで、日本の車メーカーが参入できないとのことでした。

さて、試合は、韓国、中国、地元チームと1日一試合ずつ1D4Sの団体戦が行われました。全試合の前には、両チームの監督がペナントを、選手はそれぞれ記念品を交換してから、競技が始まりました。男女とも中国には完敗、韓国とは互角、地元チームには完勝という結果でしたが、詳細はそれぞれの監督の報告にありますので、割愛させていただきます。試合後は、すぐに相手と仲良くなり、サイン交換や、記念撮影、SNSのアカウントを交換している姿が見られ、目的の一つである交流については、十分できたと思いました。私たちスタッフも、会場やホテルで韓国、中国のスタッフと卓球談議で盛り上がることができました。

試合後は各国全競技の選手団が市民会館に集まり、閉会式とフレンドシップ交流が盛大に行われました。K-POPに合わせて、ステージはもちろん、観客席の選手たちも全員総立ちで、熱く踊っていた姿を見て、今後の日韓関係、日中関係の明るい未来を感じることができました。きっと、この選手たちが立派な社会人として活躍する頃には、亀尾市にも、日本車がたくさん走っていることと思います。選手たちには、これからも卓球の技術向上は勿論ですが、韓国・中国の選手と友好を深め、お互いを尊重し、友情を育んでほしいと願います。

全日程が終了し、帰国の際には、台風10号が日本列島を直撃したことで東海道新幹線が運休するというアクシデントもありましたが、日本スポーツ協会の迅速な対応により、成田空港付近のホテルに急遽延泊することができ、1日遅れではありましたが、全員無事帰宅することができました。

終わりに、（公財）日本スポーツ協会、（公財）日本卓球協会の皆様、現地通訳を務めてくださいました、パクユジンさん、イチョンヨンさんをはじめとする韓国スタッフの皆さま、男子監督の古瀬先生、女子監督の神谷先生には、大変お世話になりました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。加えて今回参加した選手たちがこの競技会を糧に、より競技力の向上を目指し活躍してくれることを期待するとともに、卓球を通じ世界各国の選手と更なる交流を持ち、それが平和な世界への発展につながることを願います。

この度は日韓中交流事業に男子監督として帯同させていただき、誠にありがとうございました。母体の選手がいない中での参加ではありましたが、指導者としてのスキルアップに繋がる貴重な経験をさせていただきました。今回のような海外事業に監督として帯同するのは初めての経験で、出国前は自分に監督が務まるのかどうか不安がありましたが、一緒に団長として帯同していただいた塚田先生、女子監督の神谷先生に助けていただきながら、無事に帰国することができました。お二人には改めて感謝申し上げます。

さて、今回参加した男女 10 名の選手には、今回の交流事業の趣旨をふまえて、韓国での最初のミーティングの中で以下 3 点について話をしました。

- ①日本の高校生を代表して参加するので、その自覚と誇りを持ち、節度ある行動を心がける。
- ②試合に向けて最善の準備をし、勝ちにこだわって試合を行う。
- ③韓国・中国の選手と積極的にコミュニケーションを図り、他国の文化を理解する。

①については、ルールを守るだけでなく、マナーやエチケットに至るまで、各選手とも日本代表として恥ずかしくない行動を取ってくれたと思います。海外遠征自体が初めての選手もいましたが、大きなトラブルもなく無事に帰国することができました。

②については、選手は最後の最後まで勝つために最善の努力をしてくれましたが、私の力不足もあり、韓国戦、中国戦共に敗れてしまいました。2 試合とも勝つチャンスがあっただけに悔しさが残りますが、海外の選手との対戦を通して各選手とも課題が明確になったので、帰国後の練習に生かしてもらいたいと思っています。

技術面における日本選手の共通の課題としては、サーブのバリエーション、チキータができないサーブを出された時の対応があげられます。サーブについては、YG サーブもしくは巻込サーブを競り合った場面でも出せる技術力、ロングサーブのバリエーションが必要だと感じました。韓国や中国の選手は、ロングサーブとショートサーブのバランスが良く、なおかつ逆回転系のサーブの精度も高いので、日本選手に簡単にチキータをさせない効果的なサーブの組み立てをしています。日本選手が見習わなくてはならない点であると思います。

次にレシーブについてです。日本選手はフォア前のサーブに対するストップレシーブの精度が低く、競り合った場面で相手にチャンスを与える場面が多くありました。日頃からストップだけでなく、フォアハンドでの深いツッツキ、フリック、逆モーションの流しレシーブを磨いておく必要があると思います。

③については、試合後に日本選手が韓国や中国の選手と積極的に身振り手振りを交えてコミュニケーションを図り、絆を深める様子が見られました。韓国や中国の選手の中には以前対戦したことのある選手もいたようで、思い出話で盛り上がる場面もありました。最終日前夜の「フрендシップ交流会」では、各国の選手たちがレクリエーション等で交流を楽しみ、言語や文化の壁を越え、スポーツを通じた国際交流の場として、貴重なひとときを過ごしました。

今回の交流事業は競技力の向上のみならず、アジア 3 国の青少年がお互いの文化を理解し、友情を育むことができた素晴らしい機会であったと思います。参加した日本の男女 10 名の選手は今回の交流事業で学んだことを今後に生かして、対戦した韓国や中国の選手と国際大会で再会できるように努力を重ねていってほしいと思っています。私も指導者として、更にレベルアップできるように頑張りたいと思います。

この度は、日・中・韓ジュニア交流競技会卓球女子日本代表監督を務めさせていただき、感謝申し上げます。3カ国が集い、卓球を通じて交流を深めることができた本交流会において、大変貴重な経験をさせていただきましたので、詳細を以下に報告させていただきます。

本交流会は、日本・中国・韓国の代表チームと、開催都市である韓国の慶尚北道チームの計4チームで1ダブルス4シングルの団体戦形式の総当たりリーグを行った。初戦は、韓国チームに4－1で勝利し、2戦目は慶尚北道チームに5－0で勝利。最終戦の中国チームには0－5で完敗した。全体を通して2勝1敗の第2位という結果になった。以下、中国チームとの対戦を中心に感想をまとめる。

初戦の韓国、二戦目の慶尚北道では、共にシンプルなラリー展開を得意とする相手に対して、サーブ3球目攻撃や、レシーブ4球目攻撃などの細かい技術からの攻撃に相手はかなりのストレスを感じながら試合をしており、勝負どころで崩すことができたことが勝利へとつながった。それは最終戦の中国も同様で、セットの立ち上がりはそういったサーブ・レシーブからの戦術が効き、リードする場面が多くあった。しかし、セットの後半になり、相手が無理に攻めるのではなく、深いツッツキを多用して日本選手に打たせる展開が多くなると途端に点が取れなくなっていた。特にロングサーブからの展開は、序盤こそ意表を突き相手のミス进行を誘うことができたが、後半はツッツキで確実に返球され、こちらが持ち上げたボールを狙ってくる展開に苦しんだ。試合後に、女子中国チームの監督と話す機会には、「中国と日本は卓球の考え方が違う。中国は、とにかく安定を大事にする。」という内容だった。しっかりと回転をかけ、ミスを許さない中国選手のプレースタイルから学ぶことは多く、今後の指導に活かしていきたいと感じた。

本交流会では、試合以外に様々な交流の場を準備していただいた。盛大な開会式から始まり、フレンドシップ交流、辛ラーメン工場やサムスン工場の見学など、韓国の文化に触れる機会が多くあった。我々指導者もWTT等の国際大会に帯同した時とは違い、韓国チームと中国チームの指導者と共に食事を取り、各国の卓球事情や、指導に対する考え方を議論し、多くの情報交換をすることができた。日本にいと中国人、韓国人とひとくくりに考えがちだが、実際に話すと、思いやりのある方々ばかりであること。各国の指導者も日本の指導者と同様に選手との関わり方に悩んでいること。などを体感することができ、親近感を持つことができた。文化の違いはあっても、同じルールの中で同じスポーツを極めようとしている同志として今後も交流を続けていければと感じている。選手においても、韓国の学生通訳2名と共に、自由時間には韓国で人気のスイーツショップやコスメショップなどに連れていっていただき、韓国文化を肌で感じ、交流を深めた。最終日には選手と学生通訳が手紙を交わし、涙する姿が印象的であった。

8月31日（土）の帰国の際には日本列島に台風10号が直撃したことで東海道新幹線が運休止し、成田空港付近のホテルに急遽後泊するというトラブルもあったが、選手を全員無事に帰宅させることができ、安堵している。今後、国際舞台で戦うであろうジュニア世代の選手たちが、大会で勝敗を競い合うだけでなく、親睦を深めることは非常に貴重な機会だと感じる。今後もこのような交流を継続し、スポーツを通じてお互いを高め合い、健闘を認め合い、友情を深め合っていける関係性であってほしいと願う。

今回、韓国、中国の選手と試合をする中で多くのことを学ぶことができました。

韓国戦では相手のエースと試合をしましたが、何度か対戦している選手だったので、できるだけ相手に万全な状態で打たれないように工夫して台上を上手く使いながら攻めていました。しかし、1.2 ゲーム目は 10-9 とリードしている場面でどちらも焦って攻め急いでしまったところがあり、そこから逆転をされてしまい 3 ゲーム目は相手の術中にハマってしまい上手く自分の攻める展開に持っていくことができずに負けてしまいました。

中国戦ではダブルスとシングルスに出場させてもらい、ダブルスは杉浦と組ませてもらいました。1 ゲーム目の 9-9 の場面で自分が 2 本レシーブミスをしてしまったのが負けた原因だと思います。この試合もバックを中心的に狙われてしまい、そこに対応しきれずに負けしまいました。シングルスではダブルスでも対戦をした選手でバックに表を使っている選手でした。1 ゲーム目は相手のバックを警戒しすぎてフォワに集まってしまい狙われリードを広げられましたが、7-10 から緩急や回転を変えることで相手の好きなようにさせないようにして、逆転して取りきれたのは成長できた部分だと思います。相手もコース、回転を考え、試合を組み立ててきたため、一進一退のゲームとなり、ファイナルに突入しましたが、サーブの出す位置を変えたり、ストレートをうまく使って相手を崩すことができました。

フレンドシップ交流では卓球競技の代表として舞台の上に立ち日本、中国、韓国のいろいろな競技の人と協力をしてゲームを行いました。初めての人と関わることはあまり無いので緊張しましたが次第に緊張はほぐれて楽しむことができました。観光ではショッピングと工場見学をしました。普段行けないような場所を観光できて良い体験ができました。今回は精神的にも技術的にも多くの課題を見つけることができました。学校に帰ってからの練習でも積極的に取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございました。

今回は第 32 回日韓中ジュニア交流競技会に参加させていただきありがとうございました。結果としては、チームは中国と韓国チームに負けてしまいましたが、個人の結果としては、中国には負けましたが、韓国戦ではシングルスとダブルスに出場させてもらい 2 点渡ることができたので良かったと思います。地元のチートの試合ではシングルスの方の出場でしたが、自分がしっかり 1 点取ることができたので良かったと思います。韓国・地元のチームに勝てた要因としては、自分の得意なサーブ 3 球目からの展開で自分が攻める展開になり、サーバからの展開での得点率が高かったのが勝てたのだと思います。中国の選手には 0-3 で負けてしまいました。中国の選手はレシーブミスが少なく少し甘くなってもそこからラリーで巻き返される展開が多かったのが敗因だと思います。母体に帰って中国選手に負けにくいぐらいのフィジカルの強化とラリーの強化もしていきたいと思っています。そして自分の苦手な展開であるレシーブからの展開でも点数を取れるように改善していきたいと思っています。そして中国の選手や韓国の選手の技術を吸収し練習して自分の技術にできるようにしていきたいと思っています。

フレンドシップでは自分のやっている競技の人だけでなく様々な競技の日本の選手、韓国の選手、中国の選手と交流することができとても良かったと思います。観光ではロッテマートというショッピングモールと工場見学をしました。普段経験できないことをたくさんできたのですごく自分のためになったと思います。ありがとうございました。

上宮高等学校 石山 浩貴

この度の、日中韓ジュニア交流競技会は、とても楽しく充実したものとなりました。試合結果は韓国戦と中国戦に出場しましたが、負けてしまいました。もし、自分が勝っていたらチームは勝っていた展開だったので、とても悔しい思いをしました。技術面ではサーブ・レシーブだったり、細かいところやあと一本が取れなかったりそういった差で負けていて、その差を埋めるためには練習するしかないので、帰って修正していきたいです。

そして一番大事なことは、中国と韓国の交流で両国ともコミュニケーションをとったりして、すぐ友達になれて海外の人と友達になれたことは普通の人ではなかなかないので、こういった風に友達を作れたことは絶対にプラスになるし、今後の自分の大きな財産になると思うので、この日中韓ジュニア交流会に参加させていただけたことをとても嬉しく思います。

この合宿では、日本と韓国と中国の交流の大切さを学ぶことができました。交流をする上で言語の勉強やコミュニケーション能力が必要だなと思うし、一人で世界に行った時は通訳の人はいないので、英語やいろんな言語を勉強しないといけないということを改めて確認できました。英語を話せるようになることも強くなるために大切な第一歩だと思いました。最終日の観光では韓国の辛ラーメンの見学を見たりショッピングではとても大きな店に行ったり、博物館では韓国の歴史を学べたりして、とても良い経験ができました。日中韓ジュニア交流会で卓球面では細かいところのプレーや戦術を組み立てて、生活面ではコミュニケーション能力がとても大事だと思いました。この日中韓ジュニア交流会で学んだことを自分の家の人や自分のチームの人に話して中国と韓国の卓球の強さや人としての素晴らしさを伝えたいと思います。最後に日中韓ジュニア交流会に参加させていただきありがとうございました。

鶴岡東高等学校 梅木 大智

今回は日韓中ジュニア競技会に出場させていただきありがとうございました。1週間韓国で生活をして1番感じたことはどの国の選手も親切で、外国語を話せなくても身振り手振りで会話ができていることです。コミュニケーション能力はこれから社会に出て仕事をする上でも大切で、自分の思いを伝えたり、相手が伝えたいことを感じ取ることができるようになったと思うので、この経験を今後にも活かしていきます。

また競技の面では、韓国、中国、慶尚北道の3チームと対戦し、自分はダブルスで1勝、シングルスで1勝1敗という結果で、自分の持っている力は出しきれたと思います。

慶尚北道チームと対戦した時、自分は5番で出場させていただき、3-2の11-9でギリギリ勝つことができ、自分の粘りの卓球や、攻めの卓球を活かしてプレーできたと思います。しかし、中国チームとの対戦では5番で出場させていただいたものの、相手の先に仕掛ける技術の高さや、サーブレシーブのミスの少なさ、台上のストップの精度の高さなど細かい技術が高く、0-3で負けてしまい、とても悔しかったです。この経験を活かして自分も一つ一つのプレーの質を高めて、より自分の攻めを生かしていけるような卓球をしていきたいです。また試合が終わってからの閉会式では各国代表の発表を見れたり、最終日は、辛ラーメンの工場や、サンソンの会社、性理学についての博物館などにいかせて頂き、貴重なお話を聞けたり、貴重な体験ができました。今回の経験を今後にも活かして、卓球の成績も人としても向上していけるように頑張ります。

今回は、日中韓交流会に参加させていただいてありがとうございました。他国の人とスポーツを通じて普段出来ない交流などが出来てとても良い経験が出来ました。初めていく国だったので、少し不安だったのですが、ホテルもとても綺麗でご飯も美味しくて充実した毎日を過ごせました。

競技面で感じた事は、1 試合目の韓国戦で先に 2 セット取られて苦しい展開で 1 セット取り返したんですが結果 1-3 で負けてしまいました。

2 セット目と 4 セット目は、どちらとも先にマッチポイントを取ってから逆点されてしまったので、悔いの残る負け方をしてしまいました。戦術面ではずっと横上回転とバックロングをずっと相手が出していてそれに対して最後まで上手く対応できないまま試合が終わってしまったので、試合中の修正能力が大事だと感じました。

2 試合目の地元戦は韓国戦の反省を生かしてプレーできてよかったです。3 試合目の中国戦はダブルスでの試合だったんですが中国選手のフォアハンドの球の重さにとてもビックリしました。中国選手はフォアハンドを使った攻撃がとても上手く先に先手を取るのが出来ていました。自分も中国選手の様な戦術を自分から取れる様帰ってからの練習で意識します。

交流面で感じた事は試合が終わった後の写真撮影などで韓国、中国の選手とコミュニケーションが取れて他国の言語に自分から積極的に理解しようと出来ていたと思うので、良かったです。フレンドシップ交流では、最初から最後までとても盛り上がっていて楽しかったです。博物館に行ったりした時は、韓国の歴史についてもそしてとても勉強になりました。今回の遠征を今後に生かせる様にこれからも頑張ります。

今回は日・韓・中ジュニア交流競技会に参加させて頂きありがとうございました。この合宿では、たくさんのことを学びました。

まず技術的には、中国人選手と試合させてもらって自分の得意なことが全然できなくて、苦手なところを狙われて何もできないまま負けてしまいました。1 セットの中でリードできても、すぐに戦術を変えられて対応できなかったり、競った場面でずっと出してこなかったサーブを出されて自分が想像してないことをたくさんやられたので、勝つためには戦術の種類をもっと増やすことが大切だと思いました。韓国との試合はダブルスに出させて頂いて、初めて組む中でお互いのことをあまり知らないままで不安でしたが、2 人で話し合いながら考えてやることができ、勝つことができたので嬉しかったです。

また、普段はライバルのみんなと同じチームで協力して戦えてとても楽しかったです。韓国人選手とは、試合終わりに有名なかき氷を食べに行ったり、中国人選手とは写真を撮ったりたくさんコミュニケーションをとって友達になれたのでとても楽しかったです。観光では、辛ラーメンの工場見学・携帯会社の見学・生理学博物館など普通だったら体験できないことをさせてもらってとてもいい勉強になりました。

今回は韓国開催ということで、通訳の方が 2 人ついてきてくれたり、いろんな方の協力があったてこのような素晴らしい合宿になったと思うので、とても感謝しています。今回の合宿の経験を活かして、もっと上を目指して頑張っていきたいと思います。

この度は、日韓中交流競技会に参加させていただきありがとうございました。この日韓中に参加して多くの事を学ぶ事が出来ました。

まず、試合では最初韓国の選手と対戦しました。相手は、高身長で手足が長く両ハンドが強い選手でなかなか自分から攻めることができずに簡単に2セット落としてしまいました。3セット目は、上手くミドルからの展開を作って取ることができましたが、レシーブに苦戦したり凡ミスが多くて自分らしいプレーをさせてもらえず負けてしまいました。

2試合目は、韓国の地元の選手と対戦しました。相手は、普段あまり取らないようなミート系のボールで慣れるのに時間がかかったけど競った場面で点数を取ることができ、我慢できたことは良かったと思います。

最後は、中国の選手と対戦しました。自分はダブルスとシングルに出させていただいて、ダブルスでは少しの隙も見逃さない中国の選手に圧倒されました。レシーブでも少し先手を取って攻めていけたら良かったかなと思います。シングルでは、最初効いていたサーブでも大事な場面でしっかり修正して決められてしまいました。中国人選手相手にも、通用する技術があると感じたのでそれを自信に繋げたいです。中国人選手と対戦して1番強く感じたことは、1点取りたい時に強気で攻撃してきたり相手を見て予測する能力が高いと思いました。自分もその力をつける為普段から相手をよく見て試合を想定しながら練習していきたいです。日韓中に関わっていただいた方々、本当にありがとうございました。

この度は、第32回日韓中ジュニア交流競技会に参加させて頂きありがとうございました。普段は対戦する機会の無い海外の選手と試合をする事が出来、とても良い経験になりました。1日目の韓国戦では、一発の威力のドライブなどは、完全に相手の方が強いのですが、サーブやコースなどで相手を惑わして3-0で勝ち、チームに貢献できました。2日目の地元戦では、1番で小野さんとダブルスを組ませて頂き、初めて組んだ割には、サーブ3球目の組み立てやレシーブのコースを2人で話し合う事が出来て、3-1で勝つ事が出来ました。3日目の中国戦では、相手は、1球1球早い戻りとためが出来る選手だったので、どっちに打ってくるか分からず、1-3で負けてしまいました。サーブは意外と効いて、3球目で点数取る事が出来たので、もっと伸ばして行きたいなと思いました。

試合の後の交流については、みんなで写真を撮ったり、流行りのかき氷を食べに行ったり出来て、とても楽しかったです。フレンドシップ交流については、各国、種目の代表が色々面白いことや楽しい事を見せてくれて、とても笑いました。中国や韓国の選手は日本人と違って、距離を縮めるのが上手で、すぐ仲良くなる事が出来ました。違うスポーツの人と一緒に踊ったり、写真や動画を撮ることが出来てとても楽しかったです。最終日の観光では、ショッピングや辛ラーメンの工場、ギャラクシーの工場見学をしました。その後、韓国の歴史館に行き、韓国の歴史について学ぶことができました。

こんなに楽しく充実した1週間を過ごすことが出来たのは、通訳さんで来てくれた、パクさんとイさんが居たからです。パクさんとイさんはとても優しくて親身になって色々助けてくれました。また、団長で来てくださった、塚田監督を始め、私達の試合を最後まで見守って、アドバイスをくれた、神谷先生、古瀬先生がいたからです。ありがとうございました。この経験を活かして、これから先の全日本や大学などでいい成績が出せるように頑張ります。

この度は、第32回日韓中ジュニア交流競技会に参加させていただきありがとうございました。私は、今大会が海外の選手と対戦、交流する初めての機会でした。普段はすることのできない海外の選手と対戦したり、他チームの日本の選手と同じチームとして試合をしたりすることでとても良い刺激をもらうことができ、とても貴重な経験をさせていただきました。

海外の選手と試合をさせていただいて、体格の差をすごく感じました。中国や韓国の選手は身長が高く、筋力があるため体幹がぶれず一球一球の球の質がとても高く、重たかったです。試合前の練習を見ていてもそれは感じていましたが、実際に試合をしてみると、まずサーブやレシーブから質が高く、そこからのドライブがとても重たかったので相手に先に攻められると自分が対応できていませんでした。また、ラリーになっても崩れることがなくミスをしないので、自分の戦術があっても押されたり、迷ったりしてしまい、結果自滅に繋がってしまいました。しかし、このようなレベルの高い選手と試合をする中でも、サーブはとても有効的でした。私は自分の武器の一つとしてサーブがあると思っています。そのサーブでサービスエースをとったり、相手を崩せていたことで少し自信になりました。なので、そこからの三球目やカウンターを練習して得点に繋がるようにしていきたいです。また、トレーニングなども取り入れ、中国選手のように崩れず力強い球を打てるようにしていきたいです。そして、海外の選手と交流することで文化の違いや言語が違ってもコミュニケーションをとれることを学び、スポーツを通して仲を深めることができました。今大会の開催にあたり、ご尽力してくださった関係者の皆様に感謝致します。この経験を活かし、これからも努力していきたいと思います。ありがとうございました。

今回、日韓中交流大会に参加させていただきありがとうございました。私は去年もこの大会に参加しており2回目でした。去年は海外の選手と試合するのが初めてで、相手のボールに合わせることしかできず、終わってしまいましたが、そこから海外で試合する機会もあり、その経験も活かして今回の試合は自分の実力を出すことができたと思います。

今回、特に2つの課題が見つかりました。1つ目は、連続攻撃をされた時に、押され続けてしまいかけ返せなかったり、自分が1本攻撃してもカウンターされたらそこから相手のペースになって点を取られてしまうことが多かったです。海外の選手は日本より両ハンドが上手な選手が多いと感じます。そこで私は連続攻撃をもっと出来るようにするのと、相手に先に攻撃されてもブロックしてから攻撃したりなど、もっと攻撃パターンを増やすべきだと思いました。2つ目は、台上の強化です。海外の選手はフリックやチキータ、ストップなど全てにおいて上手です。レシーブは相手に先手を取られないようにする重要な技術です。そこで私はもう一度レシーブの技術を見直し、レベルアップしたいと思いました。

後は、今回の大会で海外の選手と沢山の交流が出来ました。フレンドシップ交流ではたくさんものを見れてとても楽しかったし、次の日の観光では韓国の文化や人気なものについて知れて、とてもいい思い出になりました。今回日韓中に関わっていただいた高体連の方々や、監督、通訳の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。このような貴重な経験をさせていただきありがとうございます。これまでもたくさんの海外の試合に連れて行ってくださった高体連の方々には感謝しかありません。これまでの経験を生かし、次のステージでも頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。